

## 第7回 北九州脳卒中地域連携パス協議会 議事録

日時：2011年6月9日（木） 19:00～19:15

場所：ウェル戸畑 3F 「中ホール」

出席者（敬称略）（順不同）

委員長：石束 隆男

副委員長、事務局代表：蜂須賀 研二

副委員長：浜村 明德

担当理事：井手 誠一郎

事務局幹事：小田 太士

オブザーバー：重吉 桂司

委員

九州労災病院	脳血管内科 看護師	荒川 修治 森本 タケ子
小倉記念病院	脳神経外科	中垣 英明
戸畑けんわ病院	リハビリテーション科	二見 哲夫
北九州市立医療センター	脳外科	勝田 俊郎
北九州安部公園病院	内科	田中 繁
北九州市立門司病院	ソーシャルワーカー	前田 秀隆
小倉リハビリテーション病院	リハビリテーション科	大野 重雄
戸畑共立病院	脳神経外科	辻 武寿
芳野病院	理学療法士	小西 智晴
正和中央病院	リハビリテーション科	浦上 泰成
正和なみき病院	リハビリテーション科	浦上 泰成
北九州八幡東病院	理学療法士	山下 太
新日鐵八幡記念病院	ソーシャルワーカー	三宅 仁史
北九州市立八幡病院	脳神経外科	越智 章
九州厚生年金病院	理学療法士	林 秀俊
産業医科大学病院	ソーシャルワーカー	野田 雅美
東筑病院	リハビリテーション科	前川 信行
遠賀中間医師会おかがき病院	ソーシャルワーカー	野邊 薫
宗像水光会総合病院	ソーシャルワーカー	内田 圭美
香月中央病院	理学療法士	宮崎 達也
大平メディカルケア病院	理学療法士	大橋 繁

鞍手町立病院	理学療法士	今永 真之
欠席者		
健和会大手町病院	脳神経外科	末廣 栄一
健和会大手町病院	看護師	鴨崎 治美
北九州中央病院	リハビリテーション科	奈良 聡一郎
北九州総合病院	脳神経外科	西村 茂
新小倉病院	脳神経外科	吉開 俊一
九州労災病院門司メディカルセンター	神経内科	武井 崇展
新小文字病院	脳神経外科	金子 陽一
済生会八幡総合病院	脳神経外科	岡本 右滋
新日鐵八幡記念病院	脳血管内科	藤本 茂
戸畑リハビリテーション病院	作業療法士	東谷 成晃
牧山中央病院	内科	山根 堅司
新生会病院	ソーシャルワーカー	内野 八重
新中間病院	ソーシャルワーカー	和田 菊栄

東和病院、三萩野病院については委員未選定

その他、一般出席者	急性期病院	医師	27名	医療従事者	33名
	回復期病院	医師	15名	医療従事者	109名
	一般病院・施設	医師	13名	医療従事者	37名
	北九州市保健福祉局		1名		

司会 北九州脳卒中連携パス協議会 委員長 石東 隆男先生

## 議事内容

### 1. 北九州リハビリテーション支援体制委員会 調査内容報告

北九州市保健福祉局 重吉桂司係長

本年 2 月に実施した地域連携パスならびに急性期リハビリテーションに関するアンケート調査について報告された。北九州市内の 19 医療機関を対象とし、施設基準の届け出状況、連携パスの運用状況、急性期リハビリテーションに関する調査であった。医療機関相互の連携、特に急性期病院と維持期の医療機関との連携は、市内の地域連携診療計画管理料の届け出を行っている 8 病院中、2 病院といまだ連携が不十分である。連携パスの運用上の課題は、入院後 7 日以内の連携パス取得（同意）が最も多かった。また、今後の要望点として、結果のフィードバックを求める意見が最も多かった。リハビリ関連職種の人員配置について、前回の調査（平成 17 年 10 月）と比較し増加傾向にあるものの偏在している。さらに、経験の浅いリハビリテーション専門職が増加傾向にあり、今後、研修会等に参加しやすい環境づくりが必要である。

## 2. 維持期の医療機関との連携について

北九州医師会 理事 井手誠一郎先生

平成 23 年 2 月現在、維持期医療機関の「退院時指導料Ⅱ」の届け出は行われていない。届け出に際し、まず、計画管理病院と回復期医療機関に施設基準届出を依頼し、その後、九州厚生局に計画管理病院、回復期医療機関を明記した書類を提出する必要がある。従って、維持期医療機関のみでの届け出は不可能である。今後、北九州市医師会が維持期医療機関の参加をとりまとめた上で、連携パス協議会が、計画管理病院と回復期医療機関に施設基準の届出を依頼する予定である。本年 10 月頃に各連携医療機関から九州厚生局に申請し、11 月の運用開始を計画している。

## 3. 連携パス協議会事務局幹事 小田

### ①連携パス利用状況

平成 23 年 5 月末日のパス利用状況ならびに急性期病院、回復期病院の平均在院日数について述べた。

北九州医師会に報告済みの連携パス（急性期病院）は、平成 23 年 5 月末現在、622 件と漸増傾向にある。現在使用されているパスを含めれば約 1000 件に上ると予想される。急性期病院、回復期病院の平均在院日数は、それぞれ 29.0 日、79.4 日であった。同時に病院別の平均在院日数を示した。今回は、時間の都合上、その他の集計結果については示すことが出来なかったため、次回以降の協議会で報告する予定である。

### ②連携パス Ver. 2 改訂について

#### I. 個人情報保護に配慮

⇒患者様本人が、氏名を記入したパス用紙を医師会へ送付することに同意しなかった例の報告を受けた。事務局で個人情報に配慮した方策を検討し、患者様ならびに家族がパス用紙に氏名の記入を希望されない場合、氏名の代わりにイニシャル、生年月日でよいこととした。これに関し、産業医科大学の倫理委員会委員長に確認し、個人情報の保護に該当するとの回答を得ている。現時点では案であり、今後委員の方の御意見を頂戴した上で最終的に決定する。

#### II. 前医、転院先の記入

⇒Ver. 2 から、各病期のシートを A4 サイズの 3 分割にしたため、1 枚のシートから具体的な転院先や経由した病院名を把握することはできなかった。改訂に伴い、各病期のシートから経由した病院ならびに転院先を把握できるようにした。

#### III. 項目の追加

⇒感覚障害、高次脳機能障害については、意識レベルや失語症の合併により、評価が難しいことがあるとの意見があったため、「評価困難」の項目を追加した。また、失調の項目「無」の項目を追加し、感覚障害等の項目と同様の形式にした。

経口抗凝固薬であるプラザキサが販売され、多施設で使用されていることから「プラザキサ」

の項目を追加した。

#### IV. レイアウトの変更

⇒Barthel Index のレイアウトを変更した。Ver.2 でチェック項目が横並びのためチェック漏れが多かったため、レイアウトを縦並びとした。

#### V. 記載の徹底

⇒「患者・家族への説明欄」ですが、説明者の欄には、説明した患者様や家族の名前ではなく、医療者名を記入して下さい。

また、麻痺の有無にはチェックしているが、重症度の記入がもれていることが散見されているため重症度もチェックして下さい。

#### ③今後の予定

- ・パス改訂に関する御意見は、6月末日までに集計し、7月中旬をめどに完成させホームページ上にアップロードする。
- ・これまで行った協議会の議事録をホームページ上で閲覧できるようにする

#### 4. 事務局連絡事項

##### ① 第8回北九州脳卒中地域連携パス協議会の開催予定

2011年10月6日（木） 19:00～ ウェル戸畑

②維持期医療機関の本協議会委員への登録は増加傾向にありますが、急性期から維持期までの包括医療を実践するためには、特に維持期医療機関の御協力が不可欠です。まだ登録されていない維持期医療機関で登録を御希望される際は下記まで御連絡下さい。

##### ③これまで同様、パス使用時は、コピーを必ず北九州医師会へFAXまたは郵送して下さい。

〒802-0077 北九州市小倉北区馬借 1-7-1

北九州医師会内 北九州地域連携運営委員会

FAX 093-513-3816

④今後のパスの運用に活かすため、急性期から回復期もしくは回復期から急性期病院への御意見をお聞きしています。連携パスに関する御意見もしくは今後の協議会での議題についての御要望は下記まで御連絡頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

北九州脳卒中地域連携パス協議会事務局（産業医科大学リハ医学講座）

担当職員：杉安聖子、事務局幹事：小田太士

Fax: 093-691-3529 E-mail: [reha@mbox.med.uoeh-u.ac.jp](mailto:reha@mbox.med.uoeh-u.ac.jp)

小田 太士